

校番	95	ホームルーム活動	生徒会活動	<input type="radio"/>	学校行事	別紙様式
----	----	----------	-------	-----------------------	------	------

平成30年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	福山商業高等学校	校長	田玄 和司	生徒指導主事	井手之上 訓芳
-----	----------	----	-------	--------	---------

取組事例名 『体育祭』

取組における育てたい資質・能力

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「協調性」	1	「自主的、実践的な態度」	2	「思考力・判断力・表現力」	3

取組のねらい『規律ある集団行動の体得』

体育祭を通して、運動に親しみながら、学校への所属感や連帯感を深める。クラスの仲間と協力して競技に参加し、体育祭を成功させようとする自主的、実践的な態度の育成。集団行動の体得と責任感の醸成。

取組の具体的内容『責任感、連帯感の育成』

本校では初となる『第1回 体育祭』を開催した。年度初め、クラス役員に「体育祭実行委員」を新設し、体育祭開催に向けて定期的に委員会を開く。生徒会と教員、PTA役員が協力・連携して会議を重ねながら、本校の規模に見合った競技種目の選定、用器具の準備、プログラムの作成等を行った。

開催日一週間前には、学年ごとの体育祭練習時間を設け、行進や学年特有の競技の練習を行った。臨時時間割を組むことで、該当学年団の教員も学年練習に参加して生徒の指導に当たった。学年団の教員が練習に参加することで、生徒に指導が行き届きやすく、競技ごとの入退場の流れや競技方法、注意事項などを生徒全体に周知徹底した。

クラス対抗種目や色別対抗種目等を取り入れ、生徒個々の頑張りが所属チームの得点アップに貢献できることを強く意識させた。



取組の課題・創意工夫『行事に参画する』

工夫

- ・ 体育の授業において、4月当初から小集団を指定してスポーツに取り組ませたり、行進・集合を繰り返し練習させたりして、集団行動の時間を多めに確保した。
- ・ 生徒会執行部とPTA役員合同の会議を開き、保護者参加型競技や体育祭準備等の協議を行った。

課題

- ・ 各競技中の応援の仕方、色別対抗競技中の団旗を使用した応援のやり方を生徒が分からず、色別で団結し盛り上がる応援場面が見られなかった。
- ・ 団長がリーダーシップを発揮する場面が少なかった。団長が率先して応援を行う等の事前指導を充実させる。

取組の成果（効果）『学校への所属意識を高める』

- ・ 「来年もやりたい」「〇〇の競技をやってみたい」「応援団を結成したい」といった行事に対する前向きな発言が多く聞かれた。
- ・ クラスメイトと協力して競技に打ち込むことで、クラスへの所属意識と連帯感を高めることができた。また、協力してよりよい学校生活を過ごそうとする意識が高まった。
- ・ 運動部に所属している生徒が活躍する場面が多くあった。本校では部活動への加入率が低いという課題があり、その中で部活動の生徒に自己存在感を与える場として高い効果があった。

今後の展開『学校行事の充実』

- ・ 競技内容や、実施方法を見直して、次年度以降に向けプログラム内容を改善する。
- ・ 生徒会活動の活性化、各委員会活動や部活動の充実を図る。
- ・ 文化祭で文化部が作品発表を行うように、体育祭を運動部活動の発表の場とすることを検討する。

他教科との関わり『協働』

- ・ 国語や芸術の時間に、学校行事をテーマにした取組（ポスター制作や標語づくり等）を行う。